

令和3年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 2年	科目名	柔道整復学V	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	谷口 禎二	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	前腕軟部組織 神経 橈骨遠位部骨折 手根部・手指の骨折・脱臼ならび軟部組織損傷における発生機序・好発部位・症状 整復法・固定法・合併症について理解し記述できる。			評価方法			
授業概要	上肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷の概念及び症状、診断や治療について症例を交えて学習する。			期末試験 100% 小テストにて加減 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学(理論編)	使用器材	プロジェクター				
週	授業項目・内容			実施結果			
第1週	前腕軟部組織・神経損傷その①コンパートメント症候群・正中・橈骨神経障害p299～303						
第2週	前腕軟部組織・神経損傷その②尺骨神経障害p303～304						
第3週	手関節機能解剖 橈骨遠位端部骨折分類その① Colls骨折症状ほかp304～309						
第4週	橈骨遠位端部骨折その② Colls骨折整復・固定p309 実技本						
第5週	橈骨遠位端部骨折その③Smith骨折・骨端線理解・辺縁部骨折p310～312						
第6週	手関節軟部組織損傷・手根骨骨折①舟状骨骨折三角骨骨折p313～314						
第7週	手根骨骨折その②有鉤骨骨折 豆状骨骨折その他p316～318						
第8週	手関節部の脱臼 手根骨の脱臼 手関節の軟部組織損傷p318～324						
第9週	手の機能解剖 中手骨・指の損傷その①ベネット骨折ほかp325～332						
第10週	手・指の脱臼:CM関節脱臼 指の骨折:基節骨骨折 p332～33④						
第11週	指の骨折その②中節骨・末節骨骨折p335～339						
第12週	手・指の脱臼MP・PIP・DIP脱臼p339～344						
第13週	手の軟部組織損傷第1MP関節ステナー損傷 ロッキングフィンガーp345～348						
第14週	デュピイトレン拘縮ほか指の疾患p348～350						
第15週	前腕軟部組織損傷～手指部損傷のまとめ・練習問題						
授業外学習指示等	毎日の復習と小テストに向けて学習する。						

令和3年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 2年	科目名	柔道整復学総合Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	20
実務経験		担当	谷口 禎二	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	部位別に発生する可能性のある疾患が言え、その発生機序・好発部位・症状整復法・固定法・合併症について理解し記述できる。 練習問題で確実に正解出来る力をつける。			評価方法			
授業概要	上肢・下肢・体幹の損傷を身体の総合的見地から判断する力をつける。			期末試験 100% 小テストにて加減 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学(理論編)	使用器材	OHP				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	上肢の損傷その1 肩・上腕部						
第2週	上肢の損傷その2 肘・前腕部1						
第3週	上肢の損傷その3 肘前腕部2						
第4週	下肢の損傷その1 骨盤・大腿部						
第5週	下肢の損傷その2 膝・下腿部						
第6週	下肢の損傷その3 足部						
第7週	体幹の損傷その1 頭蓋・肋骨						
第8週	体幹の損傷その2 頸椎・胸椎						
第9週	体幹の損傷その3 腰椎						
第10週	上肢・下肢・頭部・椎体の損傷まとめ・練習問題						
授業外 学習指示等	前期・中期の学習内容を反復し目を通す						

令和3年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 2年	科目名	柔道整復実技Ⅳ①	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	整骨院での施術勤務歴15年	担当	小川 勝	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	患者への説明、助手への指示が適切に行える。 各損傷の視診、触診、ROM、徒手検査等を理解し適切に行える。 各損傷の整復、固定、後療法等を理解し適切に行える。			評価方法			
授業概要	上肢・下肢における外傷について整復操作・固定法・検査法の実技を術者役、患者役、助手役と分担して学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学・実技編改定第2版	使用器材	整復・固定・検査に必要な各種用具				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	整復実技⑩足関節外側靭帯損傷(前距腓靭帯損傷)1 P403～						
第2週	整復実技⑩足関節外側靭帯損傷(前距腓靭帯損傷)2 P403～						
第3週	固定⑫足関節外側靭帯損傷(局所副子固定)1 P403～						
第4週	固定⑫足関節外側靭帯損傷(局所副子固定)2 P403～						
第5週	固定⑭足関節外側靭帯損傷(バスケットウィーブテープ固定)1 P403～						
第6週	固定⑭足関節外側靭帯損傷(バスケットウィーブテープ固定)2 P403～						
第7週	固定⑮足関節外側靭帯損傷(フィギュアエイト・ヒールロックテープ固定)1 P403～						
第8週	固定⑮足関節外側靭帯損傷(フィギュアエイト・ヒールロックテープ固定)2 P403～						
第9週	固定⑪アキレス腱断裂(クラーメル副子固定)1 P386～						
第10週	固定⑪アキレス腱断裂(クラーメル副子固定)2 P386～						
第11週	固定⑤下腿骨骨幹部骨折1 P309～						
第12週	固定⑤下腿骨骨幹部骨折2 P309～						
第13週	実技まとめ(診察)						
第14週	実技まとめ(固定)						
第15週	実技まとめ(総合)						
授業外学習指示等	授業前の予習として、次回授業予定に対応する柔道整復学・実技編改定第2版の該当する部分の読み込み、および機能解剖などの復習すること。						

令和3年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 2年	科目名	柔道整復実技Ⅳ②	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	整骨院での施術勤務歴15年	担当	小川 勝	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	患者への説明、助手への指示が適切に行える。 各損傷の視診、触診、ROM、徒手検査等を理解し適切に行える。 各損傷の整復、固定、後療法等を理解し適切に行える。			評価方法			
授業概要	上肢・下肢における外傷について整復操作・固定法・検査法の実技を術者役、患者役、助手役と分担して学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学・実技編改定第2版	使用器材	整復・固定・検査に必要な各種用具				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	整復実技⑦肘内障1 P241～						
第2週	整復実技⑦肘内障2 P241～						
第3週	整復実技⑧腱板損傷1 P257～						
第4週	整復実技⑧腱板損傷2 P257～						
第5週	整復実技⑨上腕二頭筋長頭腱損傷1 P264～						
第6週	整復実技⑨上腕二頭筋長頭腱損傷2 P264～						
第7週	固定④第5指中手骨頸部骨折1 P182～						
第8週	固定④第5指中手骨頸部骨折2 P182～						
第9週	固定⑥肋骨骨折(さらしと厚紙副子固定)1 P417～						
第10週	固定⑥肋骨骨折(さらしと厚紙副子固定)2 P417～						
第11週	固定⑩第2指PIP関節背側脱臼1 P245～						
第12週	固定⑩第2指PIP関節背側脱臼2 P245～						
第13週	実技まとめ(診察)						
第14週	実技まとめ(固定)						
第15週	実技まとめ(総合)						
授業外学習指示等	授業前の予習として、次回授業予定に対応する柔道整復学・実技編改定第2版の該当する部分の読み込み、および機能解剖などの復習すること。						

令和3年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 2年	科目名	柔道整復学Ⅵ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	小川 勝	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	下肢の運動器にかかわる外傷および疾患の診断と治療、後療法 of 知識・技能を身につける。			評価方法			
授業概要	下肢の運動器にかかわる外傷および疾患の診断と治療、後療法について学習する。総論として骨・関節、神経・筋肉の機能解剖と病態について復習し、各論として診断法、治療法、検査法についても学習する。(※一部、上肢の部分を含む)			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学・理論編改定第6版	使用器材					
週	授業項目・内容			実施結果			
第1週	下腿部の軟部組織損傷1 P421～						
第2週	下腿部の軟部組織損傷2 P421～						
第3週	下腿部の軟部組織損傷3 P421～						
第4週	足根骨骨折 P432～						
第5週	中足骨骨折・足指骨骨折 P447～						
第6週	ショパール関節脱臼・中足、足指部の脱臼 P449～						
第7週	足部の軟部組織損傷1 P453～						
第8週	足部の軟部組織損傷2 P453～						
第9週	まとめ①						
第10週	まとめ②						
第11週	まとめ③						
第12週	まとめ④						
第13週	まとめ⑤						
第14週	まとめ⑥						
第15週	まとめ⑦						
授業外学習指示等	授業前の予習として、次回授業予定に対応する柔道整復学・理論編改定第6版の該当する部分の読み込み、および機能解剖などの復習すること。						

令和3年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 2年	科目名	柔道整復学Ⅳ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	平山 依里	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	上肢・体幹の軟部組織損傷の概念及び症状、診断や治療に関する知識及び技術を習得し、記述も出来る			評価方法			
授業概要	上肢・体幹の軟部組織損傷の概念及び症状、診断や治療に関して学習する。			小テスト(4回) 10% 期末試験 90% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学(理論編)	使用器材	OHP				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	頸椎部の神経損傷 外傷性腕神経叢麻痺(P187)						
第2週	頸椎部の神経損傷 分娩麻痺 副神経麻痺(P188~190)						
第3週	頸椎部の神経損傷 長胸神経麻痺(P190)						
第4週	胸・背部の損傷 胸・背部の解剖と機能 肋骨・肋軟骨骨折(P191~197)						
第5週	胸・背部の損傷 胸骨骨折(P198~200)						
第6週	胸・背部の損傷 胸椎の骨折(P200~205)						
第7週	胸・背部の損傷 胸椎の脱臼(P205~206)						
第8週	胸・背部の軟部組織損傷 胸肋関節損傷 肋間筋損傷 胸・背部打撲傷(P206~210)						
第9週	腰部の軟部組織損傷 腰椎骨折 腰椎脱臼(P210~215)						
第10週	腰部の軟部組織損傷 脊椎分離症 脊椎分離すべり症 変性すべり症 側弯症(P216~219)						
第11週	腰部の軟部組織損傷 変形性脊椎症(P219)						
第12週	腰部の軟部組織損傷 腰部脊柱管狭窄症(P219)						
第13週	腰部の軟部組織損傷 腰椎椎間板ヘルニア(P219)						
第14週	腰部の軟部組織損傷 強直性脊椎炎(P219)						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	予習:授業を受ける前に教科書を熟読しておく。復習:3~4週間おきに、小テストを実行し、自宅学習する習慣を身につける。						

令和3年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科 2年	科目名	柔道①	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	講道館柔道4段保有	担当	山崎 和弘	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	自己能力等に応じて新しい技を身に付けて、柔道の楽しさを知るようになる事。			評価方法			
授業概要	投げ技と関連付けて基本動作と技の系統を学ぶ。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道の授業づくり(体育シリーズ)	使用器材	OHP				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	立ち技からの受け身の練習 小内刈り、大内刈り 毎回打ち込み ↓						
第2週	立ち技からの受け身の練習 小外刈り、出足払い						
第3週	固め技(絞め技)十字絞め、送り襟絞め						
第4週	固め技、攻撃の仕方						
第5週	投げ技 大腰 体落とし						
第6週	背負い投げ 釣り込み腰 受け身練習の為の無理のない投げ込みを毎回する。						
第7週	払い腰 膝車						
第8週	支え釣り込み足 大外刈り						
第9週	大内刈り 小内刈り 出足払い						
第10週	内股						
第11週	浮き腰 肩車						
第12週	技の連絡						
第13週	体さばきで投げる						
第14週	体さばきから投げ技に発展する						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	怪我には注意を払い、柔道を通して学力観を身に付けて欲しい。						

令和3年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科 2年	科目名	柔道②	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	講道館柔道4段保有	担当	山崎 和弘	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・柔道について ・嘉納師範について 卒業認定試験のための基礎的知識と技術習得			評価方法	期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)		
授業概要	実践的練習と卒業認定試験のための指導。						
教科書等	柔道の授業づくり(体育シリーズ)	使用器材	OHP				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	移動打込					毎回打ち込み	
第2週	約束練習					毎回約束乱取	
第3週	かかり練習						
第4週	自由練習						
第5週	技の発展、技の系統性						
第6週	回し系の技の練習						
第7週	得意技を作る						
第8週	試合の方法						
第9週	講道館ルール						
第10週	国際ルール						
第11週	卒業認定試験の為の礼法 ①柔道精神の修得と知識						
第12週	卒業認定試験の為の礼法 ②技の理論・姿勢						
第13週	卒業認定試験の為の受け身 ①足回しの使い方						
第14週	卒業認定試験の為の受け身 ②口頭試問の練習						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	怪我には特に注意し、自分に合った練習量で徐々に習得してもらいたい。						

令和3年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科 2年	科目名	柔道整復実技Ⅶ(OSCE含む)	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	整骨院を経営し施術業務従事中	担当	山崎 和弘	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・整骨院での業務全般を理解する。 ・各部位の骨折、脱臼、軟部組織損傷の診断、施術についての学習を理解し、疾患認知を深めること。 			評価方法			
授業概要	施術所現場での事務作業 上・下肢、体幹の骨折・脱臼・軟部組織損傷の診断や治療についての実技を学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学(理論編)	使用器材	OHP				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	療養費の取り扱い その1						
第2週	療養費の取り扱い その2						
第3週	頭部、顎関節部の疾患 診断の施術						
第4週	頸部の疾患 診断の施術						
第5週	体幹の疾患 診断と施術 その1 胸部						
第6週	体幹の疾患 診断と施術 その2 背部						
第7週	体幹の疾患 診断と施術 その3 腰部						
第8週	上肢の疾患の診断と施術 その1 鎖骨部、肩部、上腕部						
第9週	上肢の疾患の診断と施術 その2 肘部、前腕部						
第10週	上肢の疾患の診断と施術 その3 手関節部、手周辺部						
第11週	下肢の疾患の診断と施術 その1 骨盤部						
第12週	下肢の疾患の診断と施術 その2 大腿部、下腿部						
第13週	下肢の疾患の診断と施術 その3 足関節部、足周辺部						
第14週	総合演習 人体を総合的に診る。						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	予習、復習を心掛け該当箇所を記憶し、日々の授業に備えること。						

令和3年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 2年	科目名	柔道整復実技Ⅲ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	現在整骨院を開設運営	担当	石橋 徹	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	肘関節脱臼の診察及び固定が指定された時間内にたたく出来る。 足関節・膝関節の基本包帯を指定された時間内に正しく巻ける。 冠名包帯を指定された時間内に正しく巻ける。			評価方法			
授業概要	遭遇する可能性の高い外傷を中心に、各損傷の理解をより深める為、整復操作・固定法・検査法の実技を行う。			口述試験と実技試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学(理論編・実技編)	使用器材	OHP、固定具等				
週	授業項目・内容			実施結果			
第1週	肘関節脱臼(診察及び整復法)1						
第2週	肘関節脱臼(診察及び整復法)2						
第3週	肘関節脱臼(固定法)1※固定具の作成を含む						
第4週	肘関節脱臼(固定法)2						
第5週	肘関節脱臼(固定法)3						
第6週	足～膝関節部(基本包帯法)						
第7週	冠名包帯法(デゾー包帯、ウエルポー包帯、ジュール包帯)1						
第8週	冠名包帯法(デゾー包帯、ウエルポー包帯、ジュール包帯)2						
第9週	復習(鎖骨骨折・鎖骨脱臼)						
第10週	復習(外科頸骨折)						
第11週	復習(肩関節脱臼)						
第12週	復習(肘関節脱臼)						
第13週	復習(全般)						
第14週	復習(全般)						
第15週	復習(全般)						
授業外学習指示等	空き時間を利用して互いに練習する。繰り返しが重要である。						

令和3年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科 2年	科目名	生理学Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	脇田 真仁	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1年生次に学んだ生理学(内分泌系の機能、生殖、骨の生理学、神経の基本的機能、神経系の機能、筋肉の機能、感覚の生理学)の理解をより深め、演習による知識の定着により、着実に国家試験に備える。			評価方法			
授業概要	人体の生理機能を明らかにし、その機能がどのような機序で現れるかを理解し、柔道整復師として必要な生理学の基礎知識(内分泌系の機能、生殖、骨の生理学、神経の基本的機能、神経系の機能、筋肉の機能、感覚の生理学)の修得を目指す。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	生理学、配布資料	使用器材	パソコン、液晶プロジェクター				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	第9章 内分泌系の機能のまとめ、演習 A: 内分泌線 B: ホルモン的一般的特質 C: ホルモンの種類と作用 D: 視床下部のホルモン E: 下垂体ホルモン F: 甲状腺のホルモン						
第2週	G: 副腎皮質のホルモン H: 副腎髄質のホルモン I: 膵臓のホルモン J: 精巣のホルモン K: 卵巣のホルモン						
第3週	第10章 生殖のまとめ、演習						
第4週	第11章 骨の生理学のまとめ、演習						
第5週	第13章 神経の基本的機能のまとめ、演習 A: 神経細胞の形態 B: 静止膜電位 C: 活動電位 D: 閾刺激 E: 全か無かの法則 F: 不応期						
第6週	G: イオンチャネル H: 興奮の伝導 I: 複合活動電位 J: 興奮の伝達						
第7週	第14章 神経系の機能 A: 神経系の成り立ち B: 内臓機能の調節 C: 内臓機能の視床下部による調節						
第8週	D: 姿勢と運動の調節						
第9週	E: 高次機能						
第10週	第15章 筋肉の機能 A: 筋肉の種類と特徴 B: 骨格筋の構造 C: 筋収縮の仕組み D: 筋細胞膜を興奮させるしくみ						
第11週	E: 骨格筋の収縮の仕方 F: 筋肉の長さや張力との関係 G: 筋収縮のエネルギー H: 筋の熱発生 I: 筋電図 J: 平滑筋 K: 心筋						
第12週	第16章 感覚の生理学 A: 感覚の種類 B: 感覚の一般的性質 C: 体性感覚 D: 内臓感覚						
第13週	E: 嗅覚と味覚 F: 聴覚 G: 視覚 H: 前庭感覚						
第14週	第9章から第16章のまとめ、演習						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	授業を受ける前の予習として、教科書を熟読しておく。 毎回の講義で配布する小テストの問題はすべて解けるように復習する。						

令和3年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科 2年	科目名	病理学概論	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	脇田 真仁	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	・講義内容(細胞傷害・循環障害・進行性病変・炎症・免疫異常・アレルギー・腫瘍・先天性異常・病因)の理解。 ・講義毎の小テストをすべて解けるようにし、着実に国家試験に備える。			評価方法			
授業概要	柔道整復師として必要な病理学の基礎知識(細胞傷害・循環障害・進行性病変・炎症・免疫異常・アレルギー・腫瘍・先天性異常・病因)の修得を目指す。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	病理学概論 配布資料	使用器材	パソコン 液晶プロジェクター				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	第1章. 病理学とは 第2章. 疾病の一般						
第2週	第3章. 細胞性障害(1)(A細胞障害の定義、B萎縮、C変性、D代謝障害と疾病)						
第3週	第3章. 細胞性障害(2)(E壊死、F死) 第4章. 循環障害(1)(A血液の循環障害)						
第4週	第4章. 循環障害(2)(Bリンパ液の循環障害、C脱水症、D高血圧症)						
第5週	第5章. 進行性病変						
第6週	第6章. 炎症(1)(A炎症の一般)						
第7週	第6章. 炎症(2)(B炎症の分類) 第7章. 免疫異常・アレルギー(1)(A免疫の仕組み、B免疫不全、C自己免疫疾患)						
第8週	第7章. 免疫異常・アレルギー(2)(Dアレルギー) 第8章. 腫瘍(1)(A腫瘍の概念(4腫瘍の組織的構造まで))						
第9週	第8章. 腫瘍(2)(A腫瘍の概念)						
第10週	第8章. 腫瘍(3)(B腫瘍の分類)						
第11週	第9章. 先天性異常						
第12週	第10章. 病因(1)(A病因の一般、B内因)						
第13週	第10章. 病因(2)(B外因)						
第14週	第1章から第10章のまとめ						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	授業を受ける前の予習として、教科書を熟読しておく。 毎回の講義で配布する小テストの問題はすべて解けるように復習する。						

令和3年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科 2年	科目名	一般臨床医学 I	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	医師(病院実務研修有り)	担当	吉武 毅人	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	柔道整復師は患者を診察し、「施術所で治療するのか」、「医療機関への受診勧奨をするのか」の判断を常に求められる。このため、以下の項目を到達目標とする。 ①診察の基本を身につける。 ②内科疾患を中心とした疾患の概念を身につける。			評価方法			
授業概要	内科学一般・内科診断学を通じて、内科的疾患とその診察法について学ぶ。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	一般臨床医学・配布資料	使用器材	PC(PCプロジェクター・OHP)				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	診察各論(触診1)						
第2週	診察各論(触診2)						
第3週	生命徴候1						
第4週	生命徴候2						
第5週	知覚検査						
第6週	反射検査						
第7週	代表的な臨床症状(発熱・出血傾向)						
第8週	代表的な臨床症状(リンパ筋腫脹・意識障害)						
第9週	代表的な臨床症状(チアノーゼ・関節痛)						
第10週	代表的な臨床症状(浮腫・肥満・やせ)						
第11週	検査法						
第12週	まとめ1(前期内容)						
第13週	まとめ2(中期内容)						
第14週	まとめ3(後期内容)						
第15週	総合まとめ						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和3年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科 2年	科目名	運動学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院・介護老人保健施設勤務歴11年	担当	大田尾 浩	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1 運動器の構造について説明することができる。 2 正常な身体運動の機能を理解することができる。 3 疾病等による異常な運動を述べるることができる。			評価方法			
授業概要	人間の運動に関わる身体の機能と構造について基本的な知識を備えるために、正常な構造と機能について学修する。とくに、骨・関節・筋の構造と機能に重きをおいた講義を展開する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	斎藤宏・鴨下博:運動学、医歯薬出版	使用器材	配布資料、視聴覚教材等				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	四肢と体幹の運動(体幹と脊柱の運動) (P148~154)						
第2週	四肢と体幹の運動(頸椎の運動) (P155~160)						
第3週	四肢と体幹の運動(頸椎の運動) (P161~166)						
第4週	四肢と体幹の運動(胸椎と胸郭の運動) (P167~172)						
第5週	四肢と体幹の運動(腰椎と仙椎および骨盤の運動) (P173~176)						
第6週	四肢と体幹の運動(顔面および頭部の運動) (P177~183)						
第7週	前半部まとめ (P148~183)						
第8週	姿勢(姿勢の分類、重心、立位姿勢、立位姿勢の制御) (P184~188)						
第9週	歩行(歩行周期、歩行の運動学的分析) (P189~193)						
第10週	歩行(歩行の運動力学的分析、歩行時の筋活動、歩行のエネルギー代謝) (P194~199)						
第11週	歩行(走行、異常歩行) (P200~206)						
第12週	運動発達(神経組織の成熟、乳幼児の運動発達) (P207~211)						
第13週	運動学習 (P212~230)						
第14週	後半部まとめ (P184~230)						
第15週	総合まとめ						
授業外 学習指示等	1 指定した教科書を受講前に読んでおくこと。 2 講義時に配布するプリントを用いて復習すること。						

令和3年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科 2年	科目名	解剖学Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	手塚 誠	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	解剖学の全ての確認復習ができ、国家試験問題が解けるようになる。			評価方法			
授業概要	人体の構造と機能を学び、柔道整復師になるための基礎学力と応用力をつけることを目的とする。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	解剖学、図解解剖学辞典、配布資料	使用器材	OHP、白板				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	内臓系① (確認プリント・演習問題)						
第2週	内臓系② (確認プリント・演習問題)						
第3週	内臓系③ (確認プリント・演習問題)						
第4週	内分泌系① (確認プリント・演習問題)						
第5週	内分泌系② (確認プリント・演習問題)						
第6週	脈管系① (確認プリント・演習問題)						
第7週	脈管系② (確認プリント・演習問題)						
第8週	神経系① (確認プリント・演習問題)						
第9週	神経系② (確認プリント・演習問題)						
第10週	神経系③ (確認プリント・演習問題)						
第11週	感覚器系① (確認プリント・演習問題)						
第12週	感覚器系② (確認プリント・演習問題)						
第13週	体表解剖系① (確認プリント・演習問題)						
第14週	体表解剖系② (確認プリント・演習問題)						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	時間がある時は、国試の過去問を解いたりすることで、自分の力がどれくらいついているかを確認し、足りない部分は復習をしっかりと行うようにして下さい。						